

目指す学校像	・生徒のよさや可能性を伸ばせる学校 ・教職員が組織的に教育活動を進める学校 ・生徒、保護者、地域が誇れる学校
--------	--

達	A	ほぼ達成	(8割以上)
成	B	概ね達成	(6割以上)
度	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

重点目標	<p align="center">一人ひとり多様な幸せ(Well-being)を大切にする中学校</p> <p>1 基礎学力向上を図る指導法の工夫・改善と大谷口中学校STEAMS教育を通して主体的・対話的で深い学びの充実</p> <p>2 安心・安全な学校に向けた生徒指導・教育相談と満足感のある学校行事の工夫</p> <p>3 学校運営協議会の始動ステージとしての成長、方策の共有と行動</p> <p>4 ICTを積極的に活用した実践により、学校に集う誰もが居心地のよい学校の推進</p>
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標							実施日令和5年2月9日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査では、国語、数学ともに全国と比較すると平均正答率はやや良い結果である。市の学習状況調査では、国語、数学ともに市平均と比べ平均より低い結果である。 ○全国学力・学習状況調査において、質問項目の「国語の勉強が好きだ」と肯定的な回答をした生徒の割合は、市平均と比べ高く、数学はやや低い。 ○日頃の学習の様子から、調べたことを整理してまとめ、プレゼンテーションしたりすることに意欲的に取り組む生徒が多い。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語(評価観点)の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」及び数学(評価観点)の「数量や図形などについての知識・理解」に課題が残る。「国語への関心・意欲・態度」「数学的な技能」の設問では、二極化傾向が見られる。 ○生徒が各教科を学習することの意義を理解した家庭学習の定着が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力向上を図る指導法の工夫による授業改善 	<p>①各教科について、スタディサプリなどの学習への取組状況を基に学習相談を実施し生徒が自信をもって学習できるようにする。</p> <p>②市教育委員会委嘱(R4.5)を受け一人ひとり多様な幸せを実感できるよう計画的な校内研修を年6回開催する。</p> <p>③全国及び市の学習状況調査の最新の結果を基に、漢字、文法など言語活動に関する状況を分析するとともに、校内研修を充実させ、より効果的な手立てを設定し、学校全体で言語活動の向上を図る。</p> <p>④国数理社GSの五教科を中心にスタディサプリ等を活用し基礎定着を図るため校内チャレンジカップ(年6回)を実施する。</p>	<p>①国語、数学について、全生徒に対して学期に1回以上、学習への取組状況を基に学習相談を個別に行うことができたか。</p> <p>②生徒が自己採点の結果をもとに、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向けて行動できるようになったか。</p> <p>③調査結果の分析結果や校内研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを学年ごとに設定することができたか。また、言語活動に関する問題について、正答率を80%以上とすることができたか。</p> <p>④学校自己評価に係る生徒アンケートにおいて、「自分たちに学力をつけるよう努力している」と回答する生徒の割合80%以上となったか。</p>	<p>・スタディサプリの活用について、研修主任を中心に実施したが、運用に課題がある。学校の実態に合わせて運用を工夫していく必要がある。</p> <p>・二者、三者面談を学期に1回以上実施し、進路も含め、学習のアドバイスを行った。</p> <p>・校内研修は回数も含め、達成できた。</p> <p>・全国学力学習状況調査の国語科、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」及び数学科の「数と式」「図形」「関数」において依然として課題が見られる。</p> <p>・「先生は学力をつけるために努力してくれる」の項目は97%が肯定的に回答している。チャレンジカップにおける成績優秀者の発表などで生徒の学習意欲の向上を図ることで、家庭学習の定着につなげた。</p> <p>・「先生はわかりやすい授業をしてくれる」の項目において96%が肯定的に回答している。ただし保護者は同様の質問に対し71%と生徒よりは下がるので、よい実践について積極的なアピールが必要である。</p> <p>・日本工業大学、大宮工業、川口北高校と連携し、探究的な学習をすることで自ら学ぶ生徒の姿が見られた。生徒アンケートでは95%が肯定的に回答した。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・スタディサプリは弾力的に活用することが課題となっている。 ・チャレンジカップの実施により、成績優秀者は継続した学習意欲の向上が見られるが、苦手な生徒に対する手立ての工夫改善が必要と考えられる。現在、定期テスト前に行っている質問会等は引き続き充実を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が3年目となり、様々な影響を心配していたが、学校は安全と学習、行事等の両立に向け努力していた。これは校長のリーダーシップを発揮した組織的な取組が機能していると考えられる。 ・家庭学習の充実が課題ではあるが、過去を振り返ってみても同様の課題はあった。新しい手立てが必要である。 ・公開授業を増やし、学校の取組をもって知ってもらえるとのよいのではないか。 ・STEAMS教育など、他校種の先生が関わることは、子どもたちの進路を決定していく過程にとってもよいきっかけになるのではないか。このような外部とのかかわりは積極的に取り入れていくことが肝要である。 ・主体的に学習し探究的な学習の機会を意図的に設けることができている。
2	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、市平均を上回った。 ○本校独自のステップアップルームの運営を通して、生徒の自己存在感を高めている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍によるストレスや不透明感、生活の変化が生徒の心身に与える影響が大きいことから、今後も、生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 	<p>①情報端末を活用して生徒向けアンケートや面談等の記録を蓄積し、生徒一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。</p> <p>②教育支援・相談に係る校内委員会にてICTを活用することで、蓄積した情報を基に生徒の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。</p>	<p>①学校自己評価に係るアンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。</p> <p>②学校自己評価に係る生徒アンケート、保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。</p>	<p>・「一人ひとりに目を向けた学級経営がなされていたか」の項目は97%が肯定的であった。担任はクラスの様子をしっかり見極め、担任一人で抱えることなく学年で対応することができていた。</p> <p>・保護者は「お子さんの心配ごとや悩みに親身に応じている」の項目が74%であった。しかし16%は「わからない」と回答していることから、学校の様子が見える工夫が必要である。</p> <p>・生徒のアンケート結果は、ともに94%と肯定的な回答となっている。教員が生徒のために努力していることについて評価されている。</p> <p>・学校行事フォーラムは実施できなかったが、「学校行事や学年行事は楽しく充実している」の項目は96%が肯定的に回答している。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導、教育相談を充実させ、迅速かつ正確な情報共有を行い、初期対応を重視していく。 ・情報については、毎週蓄積していき、教員が確認し指導に生かせるようにしていく。今後も情報管理に十分に気を付けながら、活用を図っていく。 ・生徒はコロナ禍でありながらも工夫して取り組むことができた行事が増えたことに満足している。しかし、保護者には、直接見ることができる機会も少なく、情報発信の工夫が必要となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のエネルギーを発揮できる場の設定と学校行事等の充実を目指し、生徒に成功体験を味わわせ、自信をつけさせるよう努めている様子が見える。 ・教員間の連携から、しっかりと対応ができており、学校が落ち着いた雰囲気になっている。 ・様々な場で生徒を認め、褒めて伸ばす機会を充実させている。 ・いじめ撲滅に向けて、教職員が「いじめはいつでも起こりうる」と共通の認識をもち、いじめの早期発見・早期解決・再発防止の指導体制を整えている。
3	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○昨年度、本校学校運営協議会準備会を立ち上げ、目指す生徒の姿について熟議を積み重ね、自ら課題を見出し、協働して解決していく生徒を地域全体で育てていくことを共有した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校を核とした学校運営協議会の始動ステージを展開し、目指す生徒の姿を、家庭、地域などと共有できるようにする。また、生徒に育てたい力についてさらに熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な成長に向けた一歩を踏み出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す生徒の姿を地域全体で共有するためのICT活用、教育活動公開 	<p>①本校HP内に、新たに学校運営協議会の情報を発信するページを作成し、目指す生徒の姿を広く、家庭、地域と共有できるようにする。</p> <p>②学校行事等について、学校に関わる人々がオンラインで参観できるようにし、学校の教育活動や生徒の成長に対する関心を高める。</p>	<p>①学校自己評価に係るアンケートで、「目指す生徒の姿を共有できた。」と回答する割合が80%以上となったか。</p> <p>②学校自己評価に係るアンケートで、「生徒の成長に対する関心が高まった」と回答する割合が80%以上となったか。</p>	<p>・保護者の「より良い学校づくりのために協力活動したり、学校への関心が高まっている」の項目は肯定的な回答が59%である。やはり授業公開など、直接生徒の活動を見ることができないことが大きな原因と考えられる。</p> <p>・保護者アンケートでは「お子さんは学校が楽しいと感じている」の項目では89%が肯定的に回答していることから、生徒の姿を通じた学校への満足度は高いことがうかがえる。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が満足いくように学校の様子を配信していくための工夫が必要である。現在は学校だよりや学年通信等で、情報を発信している。 ・感染症の拡大状況を鑑みながらではあるが、諸行事は保護者公開を前提に進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での取り組みや子供たちの頑張りを伝えるために、学校HPの活用など、保護者、地域への発信をさらに積極的におこなうことが必要である。 ・家庭での望ましい生活習慣・学習習慣の形成を促すために、教育研究所等から発信されるデータや情報などを活用し、家庭学習の習慣化を図る工夫が必要である。 ・基礎学力の不足している生徒が見られるため、「できた」「わかった」など学ぶ楽しさを体得できるよう、タブレット端末などを活用した指導の工夫を引き続き努めてもらいたい。
4	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新たな学びのスタイルの中心となる、情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○各教科ではICTの活用によってより深い教材研究を行うことができている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICTの活用について、教員間で取組の差が見られる。誰もが学び続けることができる職場環境づくりが求められる。 ○教科内で共有した教材により、よい授業を展開し実践することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを積極的に活用した実践により学校に集う誰もが居心地のよい学校をつくる 	<p>①年間を通して、ICTの活用方法について、全ての教員が学ぶ校内研修を実施する。</p> <p>②一人ひとりの教員が年間を通して取り組む授業改善の目標を設定し、目標達成に向けた授業を1回以上公開する校内研修を実施する。</p>	<p>①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。</p> <p>②全ての教員が、自らの目標に向けて授業改善策に取り組み、結果として80%以上の教員が目標達成を実感することができたか。</p>	<p>・道徳の研究発表に向け、パワーポイントの共同編集を授業に取り入れるなど、ICTを基盤とした授業ができるようになってきている。</p> <p>・道徳週間を設け、全員が公開授業を行い、互いに助言し合うことで資質の向上を図った。教員アンケートにおける各教科の目標達成率は100%だった。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳を中心にICT活用の共有化を図ってきたが、今後はそれぞれの教科での活用を促していく。そのため、教科ごとに研修する時間を設け、ICT活用の有効性を高めていく。 ・教員の各教科の目標達成率については肯定的な回答は100%であったが、「概ね良好」の割合が高いため、自信をもって「良好」と回答できるよう、ICTの活用も踏まえた授業改善を充実させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学びの様子が伺え、ICTの活用が進んでいる状況が理解できた。 ・タブレット端末の活用や指導方法の工夫を図り、全生徒にわかる喜びを味わわせるなど自己肯定感の育成に努めている。 ・活用方法について生徒自ら考え実践、発表するような取組があってもよいのではないかと。

